

小田原市の旧烏帽子岩隧道で見つかったコキクガシラコウモリと ユビナガコウモリ

山口喜盛・志村尚子

Yoshimori Yamaguchi and Naoko Shimura: Notes on the *Rhinolophus cornutusto* and *Miniopterus Fuliginosus* Found in the Old Eboshiiwa Tunnel in Odawara City

はじめに

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutusto* とユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* は国内に広く分布し、洞穴を昼間のネグラにしている (阿部, 1994)。神奈川県では、かつて鎌倉や三崎の洞穴にこれらの姿が多く見られたが (Shibata & Terajima, 1958), 現在は消滅しており (寺島・柴田, 1986), 近年の記録では、コキクガシラコウモリは、丹沢山地の宮ヶ瀬 (山口ほか, 2002) と札掛 (山口未発表), 箱根山地の湖尻水門と仙石原 (石原龍雄氏私信) で確認され、ユビナガコウモリは、箱根山地の箱根用水と湖尻水門から早川上流で少数が (石原龍雄氏私信)、丹沢山地の隧道内では稀に単独個体が確認される (山口ほか, 2002, 山口未発表) 程度である。このようにこの2種は、全国的には広く分布しているものの、神奈川県においては近年、確認例が少ないことから、県内では希少なコウモリ類といえる。

筆者らは県西部を中心に、このような数少ないコウモリ類の生息状況を調べているが、今回は小田原市にある農業用水の旧烏帽子岩隧道においてこの2種を確認したので、ここに報告する。

なお、捕獲に関しては、学術研究目的で環境省 (5-155号) と神奈川県 (211号) より許可を受けて行った。

コウモリが見つかった旧烏帽子岩隧道

この隧道は江戸時代に掘られた農業用水で、荻窪用水の一部である。荻窪用水は早川から水が引かれており、取入口の箱根湯本から出水口の小田原市荻窪まで全長10.3kmにおよび (小田原市教育委員会作成パンフより), その途中には開渠と隧道 (暗渠) が連続している。今回、コキクガシラコウモリとユビナガコウモリが見つかったのはそのうちの旧烏帽子岩隧道 (図1, 2) と呼ばれる部分で、現在は利用されず水が20~30cmくらいの深さでたまっていた。

この隧道の開口部は高さ130cm, 幅 (底部) 180cmで、隧道の内壁は手掘りのままの状態であった。開口部は海拔約100mの位置にあり、南斜面の竹林内にあった。周辺はシイやカシなどの常緑広葉樹林, コナラやクヌギなどの二次林, スギやヒノキの植林地, ミカン畑などが入り混じっていた。

コキクガシラコウモリの確認

2003年10月8日の夕方、隧道開口部で出巢前に飛び回るコウモリの発する声をバットディテクター (BAT DETECTOR, MINI-3, Ultra Sound Advice, U.K.) で聞いたところ、周波数は105キロヘルツ前後で、「ピピピポバポポ・・・」というふうに聞こえた。これはコキクガシラコウモリが利用している周

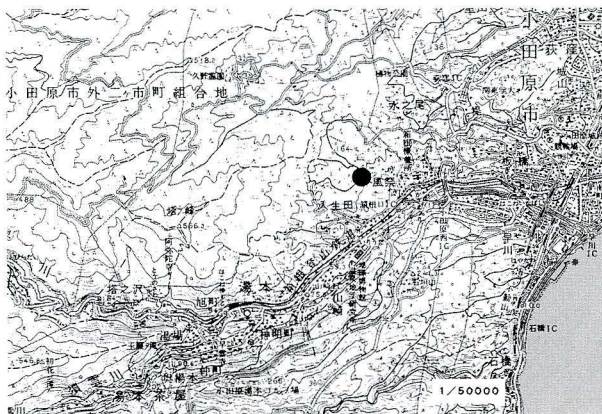


図1. 旧烏帽子岩隧道の位置。

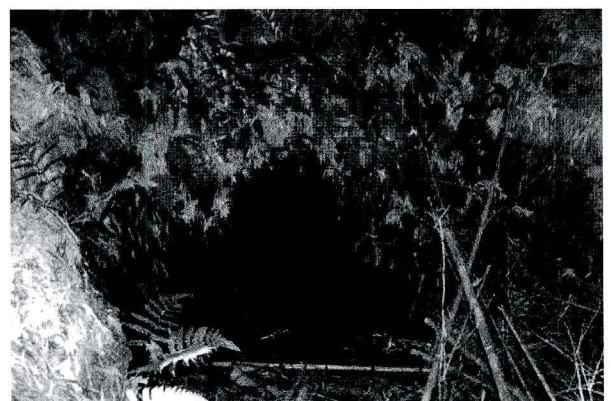


図2. 旧烏帽子岩隧道。

波数帯と聞こえ方であった（三笠，2002）。また，10月17日の夕方，隧道開口部にカスミ網を設置して，このような声を発して出巢するコキクガシラコウモリ1頭を捕獲した（表1，図3）。その時，バットディテクターと目視により10数頭の出巢を確認した。

表1. コキクガシラコウモリの捕獲記録

捕獲日	性	体重	前腕長
2003年10月17日	♀	5.7g	4.03cm



図3. 捕獲されたコキクガシラコウモリ。

ユビナガコウモリの確認

2003年8月25日と10月17日の夕方，隧道開口部にカスミ網を設置して出巢するユビナガコウモリ5頭を捕獲した（表2，図4）。またその時，バットディテクターと目視により，本種と思われる10数頭の出巢を確認した。



図4. 捕獲されたユビナガコウモリ。

表2. ユビナガコウモリの捕獲記録

捕獲日	性	体重	前腕長
2003年8月25日	♂	17.0g	4.83cm
2003年10月17日	♂	12.3g	4.60cm
2003年10月17日	♂	14.8g	4.61cm
2003年10月17日	♀	12.5g	4.78cm
2003年10月17日	♀	12.1g	4.65cm

おわりに

神奈川県において，現在，洞穴性コウモリ類の利用が確認されている洞穴や隧道はきわめて少なく，当地の他には，稀にユビナガコウモリの単独個体が入洞し，少数のモモジロコウモリが利用する丹沢山地玄倉の隧道（山口ほか，2002），少数のコキクガシラコウモリが冬眠する丹沢山地宮ヶ瀬の洞穴（山口ほか，2002），モモジロコウモリとユビナガコウモリの集団が利用する箱根山地の箱根用水（石原龍雄氏私信）が知られているくらいである。

今回，コキクガシラコウモリとユビナガコウモリを確認した旧烏帽子岩隧道は，大集団とはいえないが複数頭の集団が定住しているとみられたことから，当地は県内における本種らの貴重な生息地といえるだろう。

今後は，これらのコウモリ類がこの隧道を繁殖に利用しているのか，冬眠に利用しているのか，また総個体数などを調べる必要があるだろう。なお，筆者らは，今後も荻窪用水周辺にある他の隧道も調べ，当地のコウモリ類相を明らかにしたいと考えている。

謝辞

観察地の情報をご教示いただいた県立生命の星・地球博物館の今永勇氏，ならびに箱根山地のコウモリ類についてご教示いただいた箱根町立森のふれあい館の石原龍雄氏に心から感謝申しあげる。

引用文献

阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明，1994. 日本の哺乳類，195pp. 東海大学出版会，東京。
三笠暁子，2002. コガタコウモリの観察. コウモリ観察ブック，pp.100-125, 人類文化社，東京。
Shibata, T. & K. Terajima, 1958. Bats of Miura Peninsula, Japan. Sci. Rep. Yokosuka City Mus., (3):44-52.
寺島浩一・柴田敏隆，1986. 鎌倉市の哺乳動物相. 鎌倉市文化財総合目録，地質・動物・植物編，pp.82-92. 鎌倉市教育委員会。
山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子，2002. 丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況. 神奈川自然誌資料，(23):19-24.

（山口：丹沢湖ビジターセンター，
志村：県立生命の星・地球博物館友の会）